

事務事業評価表 平成24年度

政策 豊かさと創造性を育む生涯学習環境の充実
 施策 ふるさと意識の醸成と地域文化の創造
 基本事業 文化・歴史遺産の保存と継承

事業名 **野幌太々神楽伝承会補助金**

[0493]

部名	教育部	事業開始年度	平成7年度	実施計画事業認定	非対象
課名	郷土資料館	事業終了年度	- 年度	会計区分	一般会計

事務事業の目的と成果	
対象	<p>(誰、何に対して事業を行うのか)</p> <p>江別市野幌太々神楽伝承会</p>
意図	<p>(この事業によって対象をどのような状態にしたいのか)</p> <p>指定文化財 野幌太々神楽 の保存伝承活動を全市的活動に広げる。</p>
	<p>(事務事業の内容、やり方、手段)</p> <p>伝承活動費、用具購入費を助成する補助金の交付。</p>
	手段

事業量・コスト指標の推移						
区分		単位	21年度実績	22年度実績	23年度実績	24年度当初
対象指標1	構成員数	人	29	29	29	25
対象指標2						
活動指標1	補助金額	千円	300	300	300	300
活動指標2						
成果指標1	発表会及び研修会等活動日数	日	38	36	30	35
成果指標2						
単位コスト指標						
事業費計 (A)		千円	300	300	300	300
正職員人件費 (B)		千円	830	806	803	809
総事業費 (A) + (B)		千円	1,130	1,106	1,103	1,109

費用内訳	
23年度	負担金 補助及び交付金 300千円

事業を取り巻く環境変化

事業開始背景	野幌太々神楽を市の伝統芸能として位置づけ、後世に伝えることを目的として平成7年に発足し、全市的な保存・伝承活動に取り組んでいる団体に対する補助金の交付事業である。	事業を取り巻く環境変化	会の活動は年を追うごとに活発化し、平成13年からは自主発表会の開催や依頼公演の増加など、組織として自立し始めている。併せて指定文化財の保持団体である野幌太々神楽保存会との交流も順調に進められている。
--------	---	-------------	---

23年度の実績による事業課の評価（7月時点）

(1) 税金を使って達成する目的（対象と意図）ですか？市の役割や守備範囲にあった目的ですか？

義務的事務事業
 妥当である
 妥当性が低い

理由・
 根拠は？

指定文化財の保存、伝承活動を促進させる上で妥当である。

(2) 上位の基本事業への貢献度は大きいですか？

貢献度大きい
 貢献度ふつう
 貢献度小さい
 基礎的事務事業

理由・
 根拠は？

保持団体の保存会のみならず、市民が参加して伝統芸能を伝え残す事業展開であり、基本事業への貢献度は多大である。

(3) 計画どおりに成果はあがっていますか？計画どおりに成果がでていない理由は何ですか？

あがっている
 どちらかといえばあがっている
 あがらない

理由・
 根拠は？

活動実績等により市民の認知度も増しており、保存会との交流も順調に行われていることから、無形文化財の保存活動として成果を上げている。

(4) 成果が向上する余地（可能性）は、ありますか？その理由は何ですか？

成果向上余地 大
 成果向上余地 中
 成果向上余地 小・なし

理由・
 根拠は？

会の活動が全市的に認知され始め、地域のイベント等への公演依頼が増加してきている。また、会の活動の中に学校等での伝承活動を行うことが目的のひとつとしてあげられており、これらが増加、定着して行けば、成果は大きく向上する。

(5) 現状の成果を落とさずにコスト（予算 + 所要時間）を削減する新たな方法はありませんか？（受益者負担含む）

ある
 ない

理由・
 根拠は？

神楽は舞の種類も多いため、舞に使用する備品だけでも相当数にのぼり、未だ全てを整備するまでに至っていない。また、整備済みの備品でも修繕が必要となる場合もある。